

長崎医療センターの第4回がんフォーラム

「大腸がん」これを知ったときやダイチョウぶ を聴講して

国病久原会 OB連絡会 吉田 典子

会場はほぼ満席で、周囲の座席に座る方からはどなたも「多いですね」と声が出ていました。長崎医療センターのがんフォーラムに対する市民の関心の高さが伺えました。



私は、今回の講演会では外科の最新治療と在宅医療について関心を持って聴講しました。義父が直腸がんで人工肛門の生活をしていました

が、4年前に85歳で亡くなっていたからです。「この袋(人工肛門)がなかったらよかるとに……」とよく言っていました。

高齢での人工肛門の自己管理は大変だったのでしょう。

大村市の在宅医療にもお世話になりました。自宅でストマ ケアをする高齢での義父を訪問看護ステーションの看護師さんが支えてくれました。ケアマネージャーさんには、最後の半年間をストマ ケアに対応できるデイサービスを紹介して頂いて、義父の手からストマ ケアの煩わしさをなくしてもらいました。

[西山 仁先生\(消化器医長\)](#)は、「**診断と内視鏡について**」と題してお話されました。「大腸がんが増えている」「女性のがん死亡原因の第一」「進行するまで自覚症状がない」という、ぞっとする大腸がんも、検診で早期癌のうちに発見できる。まず検便でと教えてくださいました。

自覚症状が出てから受診した義父にはもっと早くから定期検診を習慣にできるように勧めていたらと悔やまれます。

受付でいただいた資料には、西山先生は内視鏡治療の「粘膜下層切開剥離法」の第一人者と紹介されていました。先生の「取りきれれば再発率ゼロ」の言葉は、治療技術の進歩に驚くとともに、がんが発見されても大丈夫だと頼もしく思いました。

竹下 浩明先生(外科医長)は、「**最近の外科治療の進歩**」と題して、「腹腔鏡の手術が患者の負担が少ないこと」「肛門近くの直腸がんも肛門を残す手術を鏡視下で行っている」とお話がありました。長崎医療センターでは、直腸がんでも肛門を残す手術ができるとは！骨盤深部の難易度の高いで鏡視下で肛門を残す治療ができることに驚きました。患者の身体と生活の負担を少なくする手術は凄い進歩だと思いました。

義父のように高齢で手術を受け、さらにストマケアで毎日苦勞して「この袋がなかったらよか」と嘆く人が減ることは嬉しいことです。

牧山 直弘先生(外来化学療法副センター長)は、「**最近の抗がん剤治療について**」と題して「手術だけではおさえられないがんには抗がん剤治療を行うが、化学療法・ホルモン療法・分子標的治療剤などがある」ことなどお話ししていただきました。

抗がん剤治療は副作用が強くてつらいというイメージがありましたが、薬剤や治療方法も進歩しているそうです。抗がん剤治療の副作用が少なくて少しでも楽に続けられて治療効果が上がることを期待します。

3人の先生方の講義を聞いて、長崎医療センターでは、治療技術を進歩させるよう努力されていること、患者の生活の質も考慮した治療が行

われ進歩していること、患者の状態に合わせた治療を組み合わせることで治療効果をあげていることも理解できました。

長崎医療センターでは安心して治療が受けられますが、それよりもまず2人に1人が罹患するかもしれないがんを早期に発見する必要がある、そのために定期的に検診を受けることが重要だと改めて感じました。

大村医師会副会長の山下直弘先生には **特別講演:「在宅医療について」**と題して興味深いお話をいただきました。

大村医師会は長崎医療センターとネットワークができていますが、今回、在宅療養している人を支援する会「大村医師会在宅医療サポートセンター」が旧浜屋デパートの建物内にできたと、そのシステムを教えてくださいました。

夜間など在宅中の主治医の先生に直接連絡するのは気が引けますが、24時間対応のコールセンターになら連絡しやすいと感じました。

大村市には病院での治療を受けて在宅療養になっても、サポートしてくれる先生や看護師、ケアマネージャーなどたくさんの職種の支援があること、急変時などは必要時基幹病院へ円滑に紹介データが送られて受

診できることなど、自宅で世話する家族にとっても安心できるシステムができたと思いました。

また「もしもの時に役立つもの」として、広島医師会のアドバンス ケア プランニング(ACP)のDVDも紹介していただきました。

自分が正しい判断ができない状況になったときのために、自分の意思を代弁してくれる人を作る必要がある。そのためには身近にいる人と自分の治療や最後の迎え方等の考えを話し合い理解してもらっておく必要があると言う内容でした。

自分自身そんなときのことは漠然としか考えていませんし、家族とはあまりこんな話はしていませんでした。

新しい事態が起きても私ならこう考えるだろうと家族が判断できるくらい話し合っておくことの重要性はわかります。まずはエンディングノートなどの項目をもとに家族で話し合いながらそれぞれ自分の考えを明確にする作業が必要だと思いました。

今回の講演会には初めて参加しましたが、江崎院長先生の開会のご挨拶の次のOMURA室内合奏団の演奏では心穏やかになりました。特にファゴットの音色に魅力を感じました。

良い学びの機会をいただきました。

定期検診で早期発見することを周囲に広めなくてはと思いました。

大村市民及び広く地域住民の皆様、自らの健康管理の為に、このような市民講座に積極的に参加されますようにお勧めいたします。きっと役に立つことが多いと思います。